

5. 牛白血病清浄化への取組事例（第3報）

宇佐家畜保健衛生所・¹⁾大分家畜保健衛生所
○安達聡・長谷部恵理・佐伯美穂・（病鑑）武石秀一・病鑑 中出圭祐¹⁾

【はじめに】

牛白血病清浄化対策の推進は本県肉用牛振興計画の中で重点項目に位置付けられ、現在管内の対策実施農家7戸を5年後14戸へ拡大することを目標に取組を強化している。そのような中、平成25年に繁殖雌牛の牛白血病ウイルス（BLV）浸潤状況調査を実施し、感染率が非常に高かった繁殖農場で、その後6年間清浄化に向けた取組を続けた結果、一定の成果がみられたのでその概要（第3報）を報告する。

【取組開始時の状況】

取組開始時の農場は黒毛和種雌牛約100頭をフリーバーン方式で飼養する繁殖農場で、BLV感染率は88.7%（94/106頭）であった。

【対策内容】

検査結果を受けて、農場では既存牛舎から約2km離れた空牛舎を借用し、非感染牛全頭を移動して分離飼育を開始した。感染牛94頭を血液検査により、リンパ球割合60%以上かつリンパ球数10,000個/u1以上で、BLV遺伝子量が2,000コピー数/10ngDNA以上の4頭をハイリスク牛、同1,000以上2,000未満の8頭を準ハイリスク牛として摘発し、計画的に淘汰を行った。感染牛の産子には母子感染防止のため初乳製剤を活用した完全人工哺育を導入した。牛舎の借用に合わせて増頭を計画し、自家育成牛は全頭検査後に非感染牛を優先的に保留、外部導入牛は随時検査後に群分けを行った。また、年に1回以上非感染牛群の全頭検査を実施して清浄性を確認した。

【取組結果】

取組開始からこれまでに農場の出生子牛計410頭の検査を行い感染牛72頭（17.6%）を摘発して、非感染牛の優先的な保留を推進した。導入牛は計74頭のうち感染牛が31頭（41.9%）で、結果に基づき随時群分けを行った。非感染牛群の清浄性確認検査を延べ12回364頭実施し、11頭（3.0%）の新規感染牛を摘発して速やかに隔離した。これらの取組を6年間継続した結果、農場の感染率はH25:88.7%（94/106頭）、H26:83.8%（83/99頭）、H27:81.4%（83/102頭）、H28:74.0%（71/96頭）、H29:62.3%（76/122頭）、H30:53.7%（73/136頭）、R1:47.9%（79/165頭）と大幅に改善している。

【まとめ】

BLV感染率が高い農場では、非感染牛の隔離スペースの確保や感染牛の積極的な淘汰が困難なこと等から、清浄化への取組を断念する場合も多い。本農場では若く意欲的な経営者が、補助事業等を活用して隔離牛舎の確保や増頭を行いながら計画的な淘汰更新に取り組み、着実に農場の清浄化を進めている。牛白血病対策の推進には、各農場毎の感染状況や経営形態、牛舎構造等に応じた効果的な対策を模索し、農家と関係機関が一体となって地道に取り組むことが重要であるが、今後取組を拡大するにあたり、検査費用や人的不足等の課題並びに将来的な方向性の議論が必要である。